

2025年2月18日

八代市長 中村 博生 様

「ダムを追い出し 清流守る！節分集会 in 人吉」宣言文 の提出案内と公開質問

貴職に置かれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。2020年7月球磨川豪雨災害からの復旧・復興に向けた貴職の取り組みに心より敬意を表します。地域住民の願いに耳を傾け、その想いに寄り添った自治体運営に心砕かれていますことと存じます。

私たち、川辺川ダム反対集会実行委員会は、去る2月2日(日)に、人吉市において、「ダムを追い出し 清流守る！節分集会&パレードを実施いたしました。180名を超える参加を得た集会において満場一致で採択されました『宣言文』並びに、集会でスピーカーとして発言された住民の方々の“ダムはいらない”との訴えを、ぜひお読みいただきたく、送付させていただきました。

貴職は、川辺川ダム建設促進協議会の会員として、同ダム建設に関しては促進の立場であることは存じております。建設促進協議会では2020年7月4日の豪雨災害の1ヶ月後に、国と県に対し、川辺川ダムを含む治水対策を早急に求める決議を採択され、その後も早期着工を要望されております。しかし『宣言文』にもありますように、住民・県民による40年を超える反対運動で勝ち取った旧川辺川ダム建設計画の白紙撤回が、2020年7月の豪雨災害のわずか4か月後に翻ったことに、多くの県民が驚き違和感を覚えました。蒲島前熊本県知事が国に対し唐突にダム建設を要望されたことから、再びダム建設が再浮上し、ダム建設の是非についての議論、合意形成もないままに、民意を置き去りにして国と県による手続きが進められています。流域内外を問わず川辺川ダムについては疑問を抱く県民が多く、なによりダム建設による受益者とされている被災者の多くがダムを望んでおりません。

節分集会の後、人吉市中心市街地を歩くパレードに向かって、沿道から子どもづれのお母さんたちが、あるいは建物の窓から、お店の中から「頑張ってください！」と手を振る住民の方々の姿が多々見られました。また途中からパレードに随行され、ダムは造ったらいかん！と熱く語りかける住民の方もいらっしゃいました。甚大な被害を受けながらも、被災者である人吉の皆さんが、未来に残したい、守りたいのは、ダムではなく“清流”であるという想いを、私たちはひしひしと感じ取りました。

流域住民の、清流を守りたいという抑えようのない切実な願いを、自治体の長として真摯に受け止めていただき、どう向き合うべきかを熟慮していただきたいと切に願っております。流域住民の心のよりどころである清流。地域を潤し恵みをもたらしてきた清流。県民の宝である川辺川・球磨川の清流。一度失った清流は二度ととりもどすことができません。

ダムは、ダム上流の集水域に雨が降らなければ洪水防止効果を発揮できません。2020年の豪雨でも、洪水発生時には川辺川上流にはさほど雨はふっておらず被害は、球磨川本流より先に複数の支流があふれ拡大しています。川辺川ダムの洪水防止効果は極めて限定的です。

川辺川ダムと同じ穴あき(流水型)ダムが建設された最上小国川では、4年ほどでダムの堆積物による濁りが増大したことで、釣り客が減少し、川漁にも赤倉温泉街にも深刻な影響が出始めています。世界では、ダムの弊害の深刻さからダム撤去の時代を迎えています。地域のかげがえのない資源を失い将来に悔いを残すことがないよう、今一度熟慮していただくことを切に切に願っております。

ダムを追い出し、清流守る！節分集会&パレード in 人吉実行委員会

.....

下記質問へのご回答いただきますようお願いいたします。

質問①

宣言文、及び住民の訴えについて、どのように受け止められましたでしょうか。

質問②

球磨川流域の暮らし・観光・経済を支える地域資源についてご回答ください。